

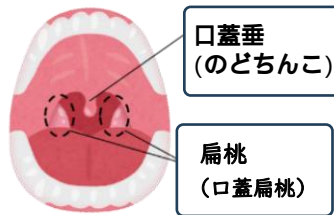


「風邪かな？」と思い、のどの激痛や発熱を我慢していませんか？それは風邪ではなく放置すると重症化しやすい「急性扁桃炎」や「扁桃周囲炎」「扁桃周囲膿瘍」かもしれません。今回はその特徴と注意点についてまとめました。

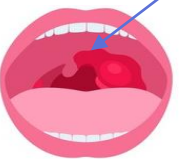
◆急性扁桃炎と扁桃周囲炎・周囲膿瘍とは？

『急性扁桃炎』は、舌の付け根の左右にある口蓋扁桃にウイルスや細菌が感染し炎症を起こす病気です。

口蓋扁桃の炎症が、扁桃の外側に広がり周囲の組織にまで及んだ状態を『扁桃周囲炎』と呼びます。さらに扁桃と周りの組織の間に膿（うみ）が溜まると『扁桃周囲膿瘍』と呼ばれ、早めに適切な処置を受けることが必要となります。



◆それぞれの症状や程度について

	急性扁桃炎	扁桃周囲炎・周囲膿瘍
主な症状	- 発熱 - 咽頭痛 - 嚥下時痛	- 首のリンパの腫れ - 全身倦怠感 - 頭痛や耳への放散痛
のどの痛み の程度	唾液は飲めるが飲み込む時の全体的な痛み	片側の激しい痛み（唾液を飲むのも辛いかまたは飲み込めない）
腫れる部位	扁桃の発赤や腫れ	扁桃の周りの組織の強い発赤や腫れ（通常は片側だけ）
のどの状態	扁桃の表面に白い斑点がみられる 	口蓋垂（のどちんこ）が腫れてない側に押される 
口の状態	通常通りに口は開く	指1～2本分しか口が開けない

◆それぞれの治療法と危険なサイン

急性扁桃炎・比較的軽い扁桃周囲炎

溶連菌など細菌が原因の場合には、抗生物質が有効ですが、ウイルスが原因の場合には症状を緩和する対症療法となります。内服治療により通常は1週間程度で改善していきます。

扁桃周囲膿瘍（膿がたまった状態）

入院治療が必要となります。溜まっている膿は、注射針による吸引やメスで切開し排出する処置を行います。点滴による水分補給や抗菌薬の投与、腫れが強い場合は炎症を抑えるためにステロイド薬の点滴を行うこともあります。痛みや発熱に対しては解熱鎮痛剤を使用し、順調に膿が排出されると1週間程度で改善していきます。



扁桃炎の炎症がさらに奥まで及び下咽頭や喉頭が腫れることや扁桃周囲膿瘍により膿の溜まりが増大すると気道が塞がれてしまい窒息の危険があります。その際は緊急入院し、気道を確保するための適切な処置（気管切開など）を受けることが必要となります。

「口が開きにくい」「のどの片側の強い痛み」「息苦しい」「水を飲めない」などの症状がある場合は、夜間や休日でもすぐに医療機関を受診してください。

※当院に受診し入院が必要と判断された場合には、すぐに入院治療ができる医療機関をご紹介します。

院内でのマスク着用にご協力ください

令和5年3月以降、新型コロナウイルス感染症対策としてのマスク着用は個人の判断が基本となりましたが、厚生労働省は、医療機関を受診する場合はマスク着用を推奨しています。

当院では、院内感染防止のため、症状の有無に関わらず、付き添いの方も含めて、小学生以上の方にはマスクを着用していただくようお願いしております。ご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。

